

調査の概要

1 調査の目的

この調査は、同一客体を長年にわたって追跡する縦断調査として、平成 22 年に出生した子の実態及び経年変化の状況を継続的に観察するとともに、21 世紀の初年である平成 13 年に出生した子を継続的に観察している調査との比較対照等を行うことにより、少子化対策等の施策の企画立案、実施等のための基礎資料を得ることを目的としている。

2 調査の対象

全国の平成 22 年（2010 年）5 月 10 日から同月 24 日の間に出生した子を対象とし、厚生労働省が人口動態調査の出生票を基に調査客体を抽出した。双子、三つ子についてもそれぞれの子を対象としている。

第 9 回調査における対象児は 9 歳（小学 3 年生）である。

3 調査の時期

令和元年 5 月 25 日とした。

（参考：第 1 回調査から第 6 回調査は 12 月 1 日である。）

4 調査事項

父母の就業状況、家族の状況、子どもの状況、学校生活・放課後のようす、家庭学習、習い事等、子育て費用、子育てに関する意識、父母の喫煙状況 等

5 調査の方法及び結果の集計

調査票の配布及び回収は郵送により行った。

なお、結果の集計は、厚生労働省政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当）において行った。

6 調査票の回収状況等

調査票の配布数及び回収数は次のとおりである。

| | 配布数 | 回収数 | 回収率 |
|--------------|---------------|---------------|--------------|
| 第 1 回 | 43,767 | 38,554 | 88.1% |
| 第 2 回 | 38,523 | 33,356 | 86.6% |
| 第 3 回 | 37,582 | 32,380 | 86.2% |
| 第 4 回 | 34,563 | 29,582 | 85.6% |
| 第 5 回 | 32,830 | 28,161 | 85.8% |
| 第 6 回 | 30,705 | 27,785 | 90.5% |
| 第 7 回 | 29,434 | 25,397 | 86.3% |
| 第 8 回 | 28,511 | 24,441 | 85.7% |
| 第 9 回 | 27,397 | 24,204 | 88.3% |

7 利用上の注意

- (1) この概況に掲載の数値は四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合がある。
なお、各図表は集計客体が異なるため、脚注にそれぞれ総数を掲載している。
- (2) 調査回における対象児の年齢は以下のとおりである。

| 調査回 | 対象児の年齢 |
|-------|-----------|
| 第1回調査 | 月齢6か月 |
| 第2回調査 | 1歳6か月 |
| 第3回調査 | 2歳6か月 |
| 第4回調査 | 3歳6か月 |
| 第5回調査 | 4歳6か月 |
| 第6回調査 | 5歳6か月 |
| 第7回調査 | 7歳（小学1年生） |
| 第8回調査 | 8歳（小学2年生） |
| 第9回調査 | 9歳（小学3年生） |

注：第7回調査（7歳）は、第6回調査（5歳6か月）から1年6か月後に実施した。

- (3) 表章記号の規約

| | |
|--------------|---|
| 統計項目のあり得ない場合 | ・ |
|--------------|---|

- (4) 「出生児縦断調査（平成13年出生児）」と「出生児縦断調査（平成22年出生児）」の結果を比較する際は、それぞれを「平成13年出生児」、「平成22年出生児」としている。
なお、「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」は、平成13年1月10日から同月17日の間及び7月10日から同月17日の間に出生した子を対象としたものである。